

ドイツの EnBW 社が進める Baltic 2 洋上風力ファーム、 建設に向けて大きく前進¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

本年早々、ドイツの EnBW 社が進める Baltic 2 洋上風力ファーム建設プロジェクトに対して 5 億ユーロの融資が欧州投資銀行から発表された。Baltic 2 洋上風力ファームの発電容量は 288MW で、バルト海の水深 23~44 メーターの地域に設置される 80 基のタービンで構成される。EnBW 社はタービンを取り付ける海洋構造物の設置工事を昨年半ばに開始し、発電開始を 2013 年末と計画していたが、資金調達の遅れ等の理由で計画がずれ込んでいた。今回、欧州投資銀行の融資が決定したことで、工事はすぐに開始され 2014 年中の発電開始が見込まれている。

ドイツの 2012 年末の洋上風力発電容量は 120 MW²であるが、現在、複数の大規模洋上風力ファームプロジェクトが進行中で、2013 年にはドイツの洋上風力は大幅に増加し年末には 1.3GW に達すると見込まれている³。しかしながら、資金調達、グリッド連系の遅れ、環境問題、海洋工事作業船の不足等克服すべき課題多く、期待はずれに終わる可能性もある。このような状況下、5 億ユーロ融資の発表は明るいニュースであり、Baltic 2 洋上風力ファームプロジェクトが完成に向けて大きく前進したことは、EnBW 社のみならず停滞しているドイツの洋上風力発電産業全体に対しても良い影響を与えるであろう。

EnBW 社は、EON 社、RWE 社に次ぐドイツ第 3 位のユーティリティ会社(電力・ガス事業)で、2008 年に洋上風力発電事業に進出することを決定し、4 つの洋上風力発電ファーム(総発電容量 1,200MW)を建設する計画を進めている。最初に手がけた Baltic 1 洋上風力ファーム (48MW)は 2011 年に建設工事を完了し、既に発電を開始している。北海では Hohe See 風力ファーム(500 MW)⁴と He Dreith(400 MW)プロジェクトを手がけている。

EnBW 社は 2011 年 3 月の福島原発事故を受け発表されたドイツ政府の脱原発政策のもと、全発電容量の 30%弱を占めていた 4 基の原子力発電所のうち 2 基は即時廃止、残り 2 基は漸次廃止することを決定した。一方、同社は 2020 年までに風力、水力等の再生可能

¹本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業(海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² Alpha Ventus (60 MW)、EnBW Baltic 1(48 MW) その他

³ 2013 年発電開始予定のプロジェクトは 6 (総発電容量 1,420 MW)、2014 年発電開始予定のプロジェクトは 38 (総発電容量 9,225 MW) を数える。ドイツは 2020 年までに 10GW の洋上風力発電ファームを建設する目標を設定。

⁴ 昨年 11 月、EnBW 社は「TenneT によるグリッド連系工事の遅れに関し、連系を促す法的な枠組みが確定するまで本プロジェクトを中断する」と発表した。

エネルギーによる発電の比率を 11%(2010 年時点) から 20%へ増加させ、総発電容量を 3,000 MW とする目標を設定している。このうち洋上風力発電は 1,200MW と大きな比重を占めている。

北海とバルト海では多くの洋上風力発電ファームプロジェクトが進行中である。これらのプロジェクトが今年どのように進展するか大いに注目される。

(ニュースソース : Reuters 1/22、WindPower Offshore 1/7、1/14、EnBW プレスリリース 2012/11/16)

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp